

学校・学級で苦戦している 子どもたちのために



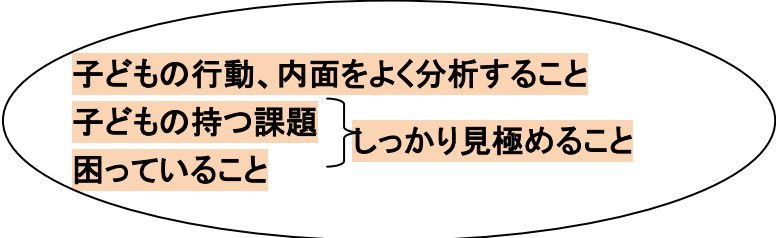
<はじめに>

学校や学級で、様々な課題を抱えている子どもたちに接するとき、それは、子どもの側の問題なのか、指導の問題なのかと悩むことが多くあります。私たち教師が子どもを理解するとき、どのような視点に立ち、どのような考え方で、子どもたちの行動を見ていけばよいのか、その手がかりとなるものを作りたいと思いました。

小中学校の現状～子どもたちが抱える課題～



子どもの行動を考える

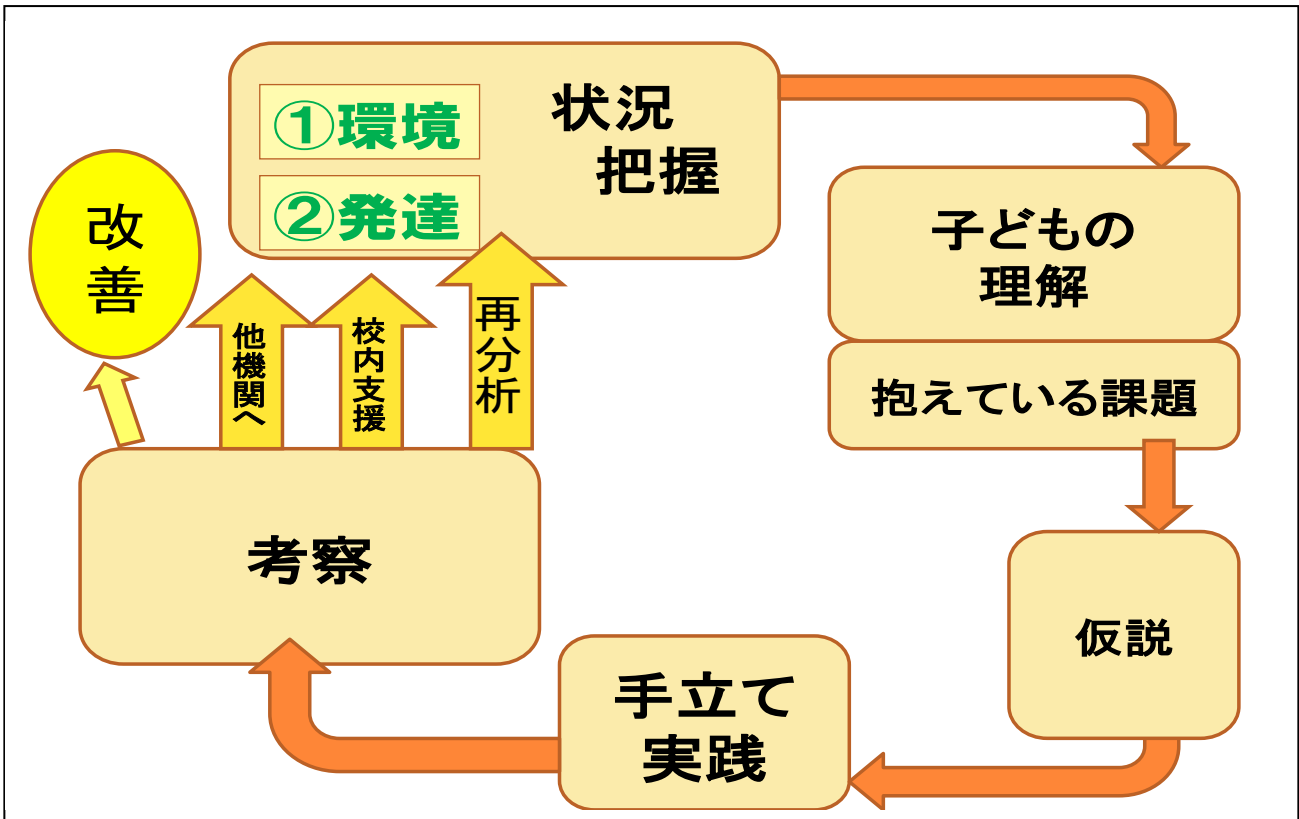


適切な指導に近づく第一歩です。

どのように分析するか



子どもを理解するうえで、「状況把握」はとても重要です。子どもの発達の様子や環境をよく把握し、支援の手立てを考えていきましょう。



上のような5つの段階を経て、分析していきましょう。分析を進めるにあたり、巻末に、分析シート（「状況把握」「理解・実践」「ふりかえり」）を添付しました。状況を書き込み、整理することで支援方法を具体的に考えることができます。

分析をしてみよう

分析シートの「状況把握」→「理解・実践」→「ふりかえり」の流れに沿って、子どもたちの行動を分析してみましょう。

1. 状況を把握しましょう

子どもが苦戦した場面を思い出してください。
それは、いつ、どこで、どんな状態でしたか。
「状況把握」の観察チェック①に記入してみましょう。
①をふまえて、観察チェック②にはその子を取りまく環境、
その子自身のことを細かく振り返ってみましょう。
観察チェック③は、①②を振り返って、特に気になる項目に
印をつけましょう。



分析シート

() 学校 () 年
氏名 () 男 ・ 女

記入日 () 年 () 月 () 日 () 曜日

記入者 ()

「状況把握」、「理解・実践」、「ふりかえり」の順に進みながら、子どもたちにできる支援を考えていきましょう。

状況把握

「子どもが苦戦した場面」を見つけたら、その子自身が「どんな状況にあるのか」を詳しくチェックしてみましょう。

観察チェック①では、発見した「苦戦した場面」そのものを挙げ、

観察チェック②では、その子を取りまく環境、その子自身の状態について振り返ります。
(①での気づきも含めましょう)

観察チェック③では、何がこの子の課題なのか、気になるところはどこかを見つめ、印をつけます。
(重要度によって、◎、○など使い分けてもいいです。)

観察チェック①

苦戦した場面

例) 整理整頓ができない
注意されると反抗的な態度をとる
特定の教科がひどく苦手である

まず、苦戦した場面そのものをよくふりかえって、子どもの状態を確かめましょう。

分類		チェックの結果
起こった状況	いつ	例) 通学途中、授業中、休み時間、清掃中、放課後
	どこで	学校内、教室、家庭
	だれが(だれと)	本人が、 教師に対して 友だちに対して
	周りの状況、様子	机やロッカーの中が片付かない 落ち着きがなく、立ち歩いている
	起こる頻度	毎日、時々
	他の気になる状況、様子	友だちに話しかけられても聞いているようには見えない
子どもの状態	目に見える状態	指示に従わない、泣く、暴れる、返事をしない
	予想される心理状態	不安感、緊張感、恐怖心、焦燥感

観察チェック②・③記入例

①をふまえて、その子をとりにく環境、その子自身のことを細かくふりかえってみましょう。

チェック①・②をふりかえって、特に気になる項目に印をつけましょう。

観察チェック②

観察チェック③

分類			チェックの結果		これまでの結果を見て特に気になる点(◎、○など)
環境	家庭	人的	親子、兄弟姉妹関係 例) 父母は優しい、1歳の妹がいる	→	
		物理的	住居 建て替え中のため仮住まいマンション17階	→	
	学校	人的	教師、友人との関係 仲の良い友達はある、担任とは話をする授業中指名されても話さない	→	◎
		物理的	学校環境 繁華街にある田園地帯にある	→	
	地域	人的	地域の人との関係 元気のいい子だと好意的に受け入れられている 言うことを聞かない子だと思われる	→	
		物理的	地域の環境 住宅が多く静かである	→	
	社会	地域、地域・学校外の所属機関(チーム、習い事なども含む)	習い事をしている 子ども会活動をしている	→	
	自然	子どもが苦戦しやすい時間帯、季節、天候	学期の始まりによく起こる、雨の日、特に暑い日	→	○
発達	身体	身体全般の発達(不器用さ、感覚の問題など)	柔軟性がなくぎこちない動き 痛み弱い	→	◎
	心理	情緒(不安定、感情の起伏などの心の発達状態)	些細なことですぐ興奮する 不安や悲しみ、驚きなどを感じているように見えない	→	◎
	社会	コミュニケーション、社会性の問題	冗談が通じない 誰とでもすぐ仲良くなる	→	○
	学力・思考力 その他	できること、できないこと、その他(体力、芸術等)	特定の教科が苦手である 音楽、特にピアノが上手 毎年リレーの選手に選ばれる	→	◎

次は、③でチェックされた気になる行動を改めて書き出してみましょう。



2. 理解を深めましょう

観察チェック③で印をつけた箇所を書き出します。
子どもが苦戦した場面に関連することは全て書きましょう。

理解・実践

観察チェック③でチェックした特に気になった部分を、
観察チェック②からそのまま抜き出しましょう。それが、その子の課題につながります。

子どもがかかえている「課題」を明確にし、
なぜ課題をかかえているのか、そうなるのか「仮説」を立てます。

仮説をもとにして、課題が改善できるような「手立て」を考えてみます。
手立ては、具体的なものを思いつくだけあげましょう。

さらに、実際の生活の中でできる実践の「方法」「期間」を設定して取り組みます。

観察チェック③でチェックした、特に気になった点を②から改めて書き出してみましょう。

<観察チェック③から>

- 例① 些細なことですぐ興奮する
- ・学期の始まりはよく起こる、雨の日、特に暑い日
 - ・柔軟性がなくぎこちない動き、痛み弱い
- 例② 特定の教科が苦手である
- ・仲の良い友達がいる、担任とは話をする

なぜそのような行動をとるのか、どんな課題を抱えているのか、視点をしぼりましょう。
本人が困っていることを、具体的に書きましょう。

その子は、なぜそのような行動をとってしまうのでしょうか。
本人はどんな課題をかかえているのか、なぜそうなるのか、仮説を立てましょう。

<抱えている課題>

- 例① 自分の気持ちや考えを分かりやすく相手に伝えられない
- 例② 特定の教科がよく理解できないので、学習意欲を失っている

抱えている課題の原因を考えながら仮説を立てましょう。

<仮説>

- 例① 自分の気持ちや考えをまとめて表現することが苦手で、注意や励ましを自分への攻撃と受け取って過度に興奮する
- 例② 特定の教科だけが特に理解できず、怠けていると誤解されているが、短期記憶や空間認知力に課題がある

3. 手立てを考え、実践しましょう

仮説をもとに、具体的な手立て(教師ができること)を考えましょう。
その後、実践したことを書きましょう。

仮説をもとに、具体的な手立てを考えて、実践してみましょう。

<手立て>

- 例① 落ち着いた状況で、本人の言い分を聞く
現状を理解させ、冷静に判断できるように指導する
- 例② 教材や教具を工夫し、視覚的にもわかるようにする

<実践(期間)>

- 例① 本人の言い分をじっくり聞き、望ましい言動について考えさせる(1ヶ月)
- 例② 算数や数学は、九九表や単位の換算表、電卓を使わせる
国語は、電子辞典を使わせる(1年間で、学期ごとに振り返る)

4. 実践結果をふりかえりましょう

実践した結果、「改善されたこと」、「まだ不十分なこと」を具体的に記入しましょう。

ふりかえり

実践が有効だったかふりかえりましょう。

課題が全面的に改善されたのか、一部改善されたのか、方法・期間は適当だったかなど、考えてみましょう。

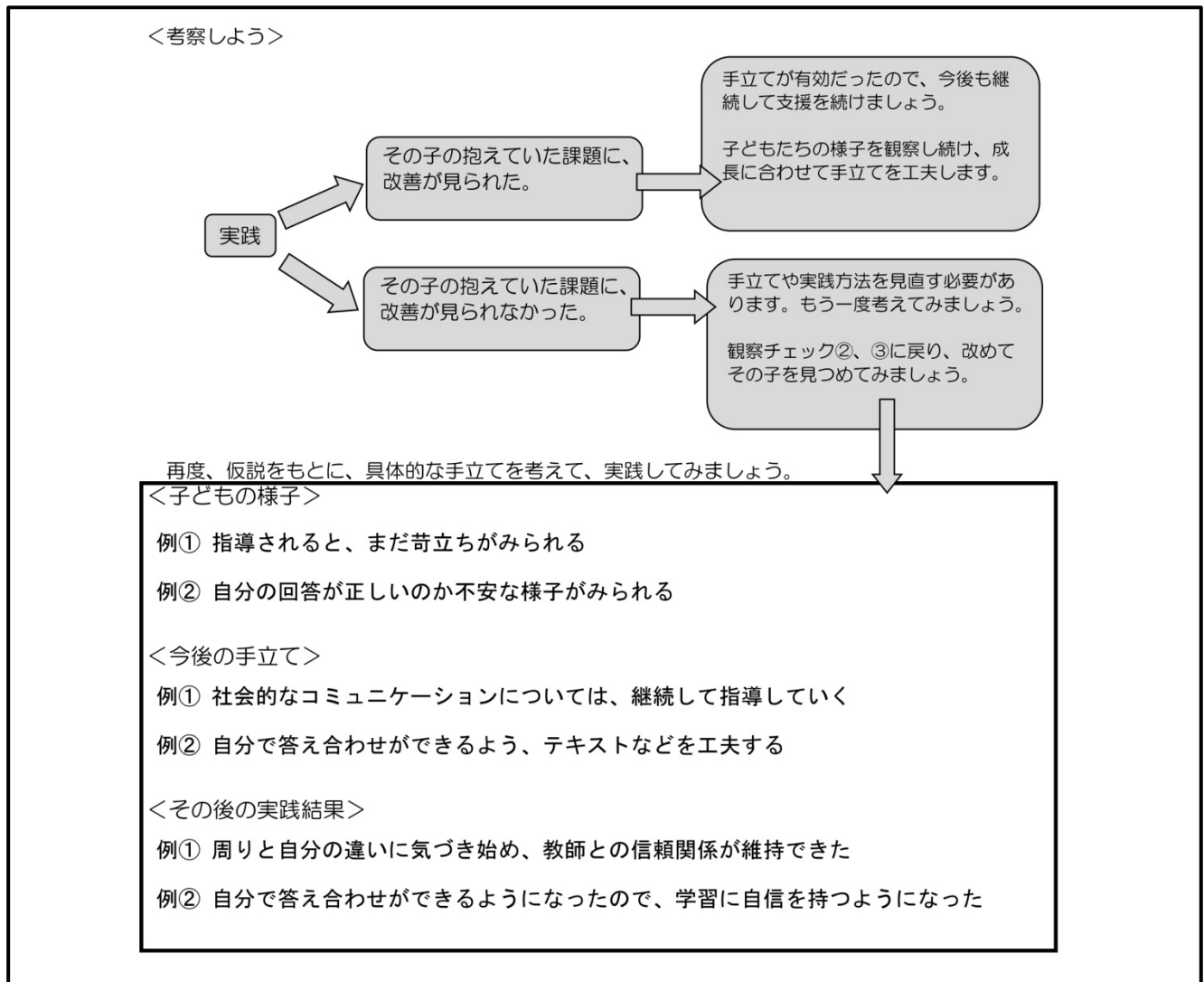
手立てや実践方法を見直す場合は、はじめの「観察チェック②、③」「仮説」などに戻り、その子を見つめ直してみましょう。

<ふりかえり>

- 例① 自分自身を客観的に見たり、教師の話に耳を傾けたりできるようになった
時々、投げやりな態度や苛立ちが見られた
- 例② 視覚的にも問題を提示したことで、内容の理解が進み、正答率が上がった

5. あらためて考察しましょう

実践後、改善が見られたか、さらに支援の工夫が必要か、考えましょう。



〈MEMO〉

〈MEMO〉

分析例

分析例 **A** →分析シート ([Excel 版](#)・[PDF 版](#))

整理整頓ができない

分析例 **B** →分析シート ([Excel 版](#)・[PDF 版](#))

規則違反への注意をきけずに、感情的にいらだちを表してしまう

分析例 **C** →分析シート ([Excel 版](#)・[PDF 版](#))

算数の授業中、計算問題を間違えてしまう

分析例 **D** →分析シート ([Excel 版](#)・[PDF 版](#))

図書室や体育館などに移動するときに、クラスのみならず一緒に行動できない

以上の4つの「分析例」と「分析シートの原本」はこちらから([Excel 版](#)・[PDF 版](#))。分析の参考にご活用ください。

<おわりに>

学校や学級で苦戦している子どもたちのために、私たちができることは何かと考えたとき、彼らのことを知り、彼らを理解することが第一ではないかと考えました。子どもたちを取り巻く環境も、一人ひとり異なり、ある子どもに適用できたことが他の子に受け入れられるとは限りません。子どもたちの苦戦に気づいたときに真っ先に考えることは、支援級に籍を移したり、病院に任せたりすることではありません。

私たちは、子どもたちと日々生活を共にし、子どもたちの様々な場面を見聞きしています。その現状を元に分析していくと、何か手立てがあるはずで、教師が視野を広げ、「学級でもできることがある」ということを忘れず、支援の工夫に取り組んでいきましょう。

このシートは、個人で使用することもでき、チームの支援でも活用できるシートです。担任を中心に状況を把握し、前担任・学年・コーディネーターなどの校内関係者が協力して、広い目で支援方法を考えていくことができます。

これは、あくまでも私たちが子どもたちを理解するための考え方の一つを提案するものです。実際の教育活動は、様々な要因により流動的に行われています。様々な問題に直面している子どもたちに出会ったとき、その子に合った方法を考えるためのヒントとして活用していただければと思います。

参考資料

<神奈川県立総合教育センター>

- 「LD、AD/HD、高機能自閉症の理解と支援のためのティーチャーズガイド」
- 「明日から使える支援のヒント」
- 「学校生活や友達関係で困難を抱えるあなたへ」

- 厚生労働省HP
- 文部科学省HP
- 独立行政法人 特別支援教育総合研究所HP

〈MEMO〉

調査研究・執筆

教育相談研究員会

平松 純子（座間市立立野台小学校）

小辻 美音（座間市立座間小学校）

栗林 祥子（座間市立中原小学校）

渋谷 恵生（座間市立中原小学校）

松岡 千夏（座間市立相模中学校）

編集・構成

大島 直美（座間市教育研究所 所長）

野澤 慎（座間市教育研究所 指導主事）